

東日本大震災の教訓

～ 気仙沼市の公民館の取組から ～

気仙沼市教育委員会 白幡 勝美

1 はじめに

① 気仙沼地域での津波の歴史

○3000～5000年前:3回の津波……………地層の存在

○貞観11年(869年)の津波……………地層の存在

○慶長16年(1,611年)の津波……………地層の存在

史実としての伝承

○明治29年(1,896年)三陸津波……………死亡1906名

○昭和8年(1,933年)三陸津波……………死亡81名

○昭和35年(1,960年)チリ地震津波…死亡9名

○平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震津波…死亡
1243人名(申述書による死亡届374名)(気仙沼市住民
登録者)

※ 平成26年8月12日現在

② 気仙沼地域での津波遺蹟



↑ ○海嘯記念館

← ○津波境標柱



↑ ○津波記念碑



← ○津波供養碑



2 この度の東日本大震災

① 震災の状況(気仙沼市片浜地区)



② 被災状況__1

- 発生：平成23年3月11日14時46分
- 震源：北緯38.1度 東経142.9度 深さ24km
- マグニチュード：9.0
- 市内震度：赤岩・・・6弱、笹が陣・・・5強、本吉町・・・5強
- 津波高：最大27m
- 浸水面積：市域全体・・・18.65 km²、都市計画区域・・・ 9.60km²
- 焼失面積：2.48km²
- 地盤沈下：最大74cm(旧市内)
- 死亡者数：**1,243人**(申述書による死亡届：**374人**、気仙沼市住民登録者)
※平成26年8月12日現在
- 震災関連死認定：**103人**・・・平成24年8月6日審査会時点

③ 被害状況__2

- 住家被災棟数:259,971 棟・・・平成24年9月30日現在
- 被災世帯数:9,500世帯
- 避難所数:最大105箇所(平成23年3月20日)
- 避難者数:最大**20,086**人(平成23年3月17日)
- 応急仮設住宅:計93団地、3,503戸
- 見なし仮設住宅:2,467件、4,320人(平成23年9月30日現在)
- 被災事業所:**3,314社 / 4,102社**
- 被災従業員:**25,236名 / 30,232名**
- 被災漁船:**約3,000隻 / 3,566 隻**

流出した油タンク →



3 津波被災と公民館

※ 被災地のフェイズ(被災者の居所の変化)

A 自宅(地震・津波発生前)

..... ①避難(地震・津波発生)

B 一時避難所(高台、避難ビル他)

..... ②避難

C 避難所(公民館、学校他)

..... ③移動

D 仮設住宅・みなし仮設(生活の質の確保)

..... ④移動

E 自宅・災害公営住宅・災害アパート

..... 体験から得られたこと

○被災地の状況とニーズは日々変改し、公民館もそれに必死に対応する必要があった。
フェイズは居所によりA～Eで、避難・移動により①～④で押さえた。

市全体としてみれば現実はまだDの最中にある。

① 大震災前の実践・・・危機管理課、学校が牽引

◎津波防災での学習、備え、訓練の内容

- ア 災害の特色を知ること
- イ 災害に備えること
- ウ 災害時に命を守るための行動を考え、訓練し、習熟すること
- エ 自ら判断し、行動できるようになること
- オ 情報を入手・活用し、発信する方法を習得すること
- カ 普段から協力・連携すること



◎ESDにおいて獲得が期待される ちから

- ① 学び、理解するちから
- ② 未来を予測し、備えるちから
- ③ 現状や提案を評価し、よりよいものとするちから
- ④ 主体的に行動するちから
- ⑤ 情報を活用し、発信するちから
- ⑥ 人とつながり、協力するちから



↑ 避難訓練

↓ 避難情報マップづくり:津波体験館



② 防災の3つの“助”と防災教育

○本市における津波防災教育

津波防災教育では3つの“助”を活かすよう学び、備え、訓練することが大切とされている。以前は市危機管理課、学校、自治会、会社等がそれぞれ独自に取り組んできたが、平成15年以降は市危機管理課、学校が公民館や消防・警察、自治会等と連携して一体となって実施するようになっていた。

なお、宮城県は平成24年度以降、各学校に防災主任を置き、市町村には防災主幹を配置した。

本市教育員会では教育研究員制度を活かし、防災教育を研究・実践している。市は平成25年になり地域防災計画を改定し、地域、学校等が連携しての地区毎の災害への備えが一層充実することになった。

○N助について

この度の震災前までは、災害時の助け合いは自助、公助、公助として学びや訓練等をしてきたが、**NPO、NGO NETWORK**の活躍・貢献の貴重さ・大きさに敬意と感謝を込めて、震災後、気仙沼市教育員会が使い始めたものである。

③ 連携による防災・・年齢、立場を越えた防災への取組



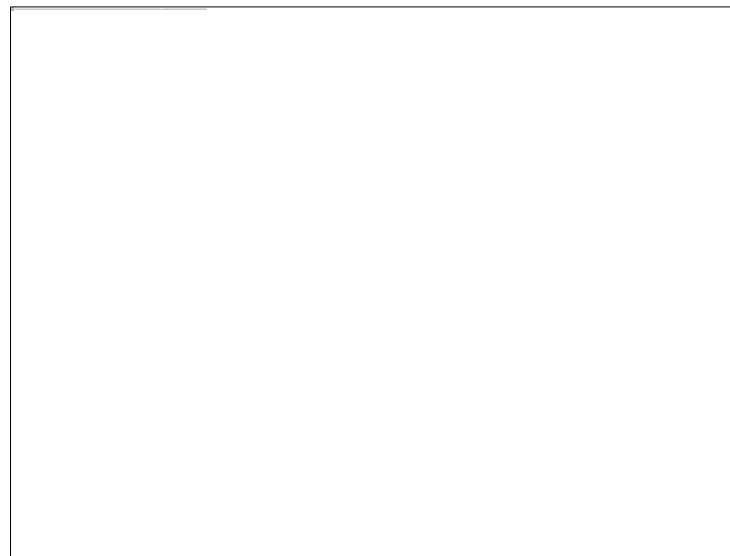
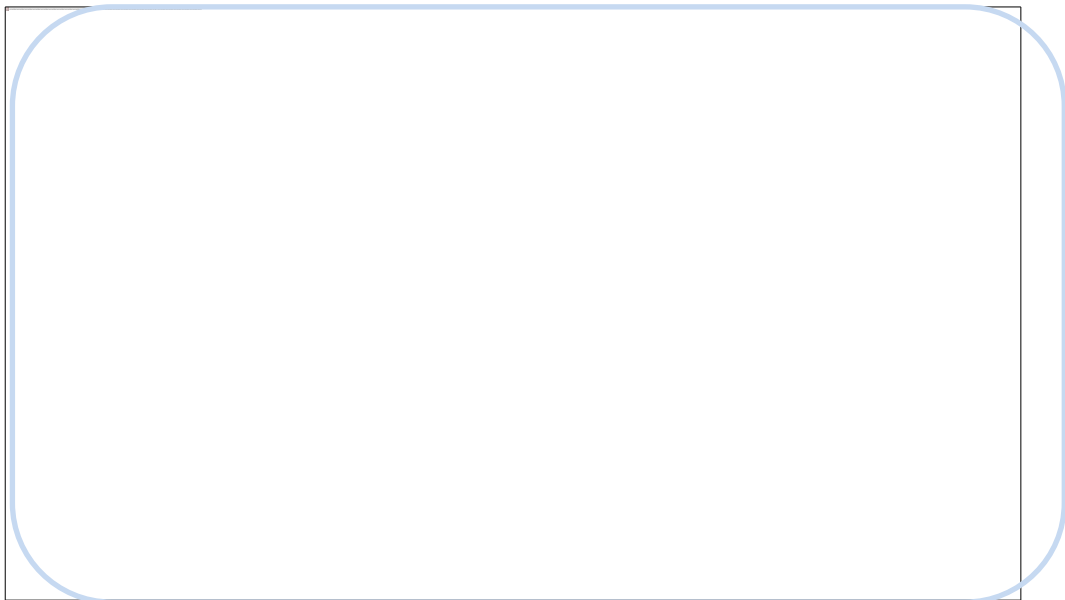
← ○平成20年6月大谷公民館・中学校・小学区・幼稚園の合同訓練

○

○平成22年6月大谷公民館・中学校・小学区・幼稚園の合同訓練 →

① 4 東日本大震災時の気仙沼市民の避難

① 避難の実際



↑ 車での避難も多かった。現実に合わせた方針が大切。

↑ 静岡大学 牛山素行研究室による

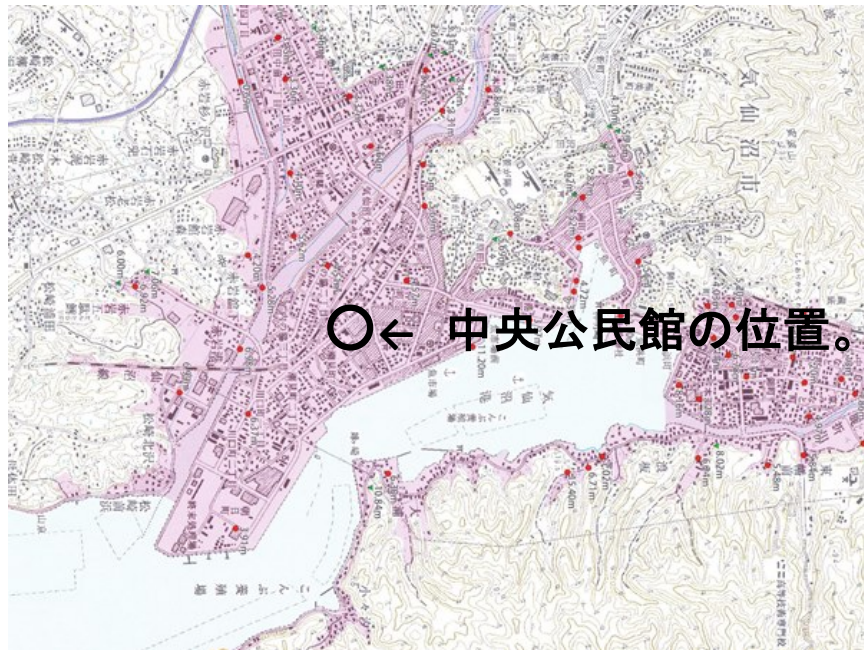
○浸水深の関係なく死亡率は5%以下である。
○特に4m以下であれば死亡率は0.5%以下である。

○徒歩での避難。声を掛け合っていることが窺える。写真は今川悟氏による →



①

② 中央公民館に押し寄せた津波と避難



○ ← 中央公民館の位置。ピンク色は津波浸水を示す。

○道路を舐めるように流れる水が入ってきたらもう危険だった。

(津波)  (避難) 

DSC_9831.AVI DSC_9946.AVI

↑原口・岩松著「東日本大震災津波詳細地図」

○海岸から遠く、高い所に逃げればよいが、時間にゆとりが無いときは近くのより高い →



B 5 一時避難所としての公民館

① 一時避難所になり得た条件



← ○平坦な土地が続き、逃げ難い場所に中央公民館が建てられていた。

○鉄筋コンクリートでできた公民館は津波に対する耐性をもっていた。

○入り口はどこで、階段はどこかが知られていた。

…普段の訓練が有効だった。助け合って避難できた。また、外階段の手すり等も訓練を経て改修されていた。

→

② 一時避難所の動き



DSC_0181.AVI

↑被災夜の中央公民館

- 中央公民館では避難者・公民館職員が力を合わせ 3/11:15～3/13:13hの間命をつなぎ、遂にヘリコプターで 450余名が救出された。
- 鹿折公民館では、避難者・職員合わせて199名が館の中で頑張ったが、翌日になり、動ける者は鹿折中学校、東陵高等学校に移動した。
- 小泉公民館では、津波到達前に避難者 10名とともに避難所である小泉中学校に移動した。この後、この公民館は津波で流失した。
- その他の公民館(小原木,新月公民館を除く)8館及び、公民館に準じる市民会館、市総合体育館はすべて 一時避難所になり、そのまま避難所となった。

..... 体験から得られたこと

↓へりでの救助に感謝

- ◎公民館には建物としての高さと強度が重要である。
- ◎公民館には生活を維持する機能が備わっていることから住民から避難先として期待される。
- ◎連携しての避難訓練には大きな効果があった。
- ◎備蓄はより多く必要であった。
- ◎水、電気、交通が断たれた時の対策が必要である。
- ◎情報の入手が大切である。
- ◎普段からの連携が必要である。

^c 6 避難所としての公民館

① 被災の軽かった公民館の動き

○階上公民館↓

地域、小・中学校とも強い連携があった。施設が被災しながらも様々な工夫によって乗り越えてきた。補修工事は平成26年7月になっても続いている。

○松岩公民館↑

民間に委託運営されている。もっとも早く、避難者の生活を確保したと評価は高い。公民館としては最も長く避難所を開設していた。



② 避難所(公民館)での生活の保持

…松岩公民館の例…

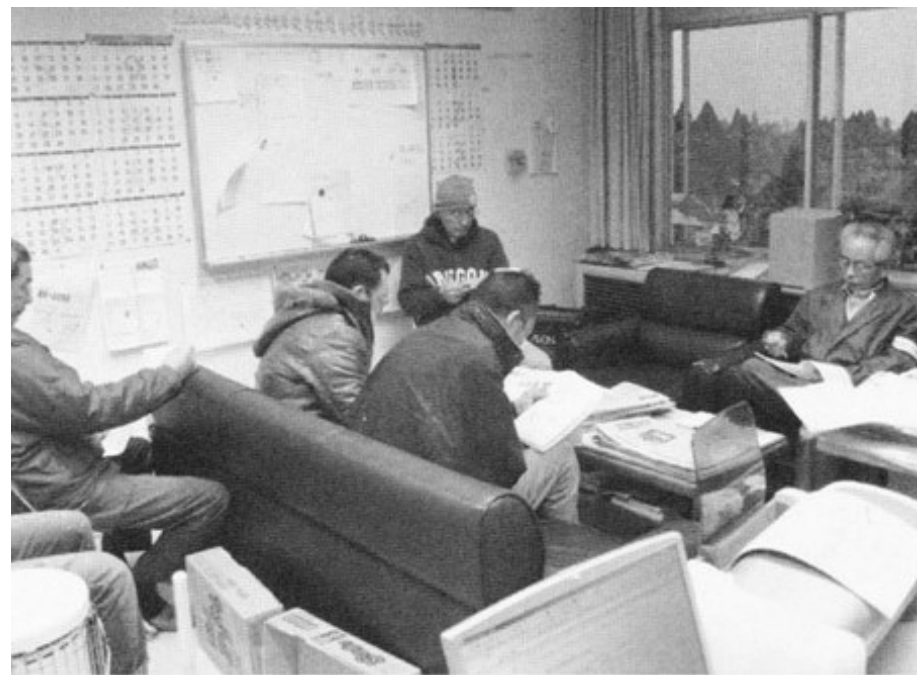
館の運営組織

- 管理… 渉外、庶務・広報・防犯
- 受付… 安否確認、名簿管理、館入出管理
- 生活… 救護、設備・光熱、救護保健、仮設風呂
- 調理… 食材管理、調理、配食



↑ 避難生活_当初

↓ 朝の打ち合わせ



③ 避難所(公民館)での生活の自立へ

・・・自治会の結成と機能・・・松岩公民館の例・・・

早い段階から生活者として協力し、いずれは自治すべきことを申し合わせていた。



↑ ○避難者の活躍

↑ ○中学生のボランティア活動

..... 体験から得られたこと

- ◎公民館の避難所は長引く可能性がある。
- ◎避難所内に自治会を結成するなど、避難者の自立性を高める必要がある。
- ◎行政からの派遣職員が果たす役割は大きい。
- ◎NPO、NGOとの連携を重視する必要がある。

D 7 設住宅入居者と公民館

① ボランティアとの連携、心のケア・地域との交流支援

↓ ○松岩公民館：保育所園児芋ほり



↑ ○松公民館：西川氏訪問

② 平時化による仮設支援・地域支援__1

○ 中学校、地域、公民館、仮設住宅住民一体になった運動会。(鹿折中学校)



○ 仮設住宅住民、一般市民一緒の
登山 (唐桑公民館) →

..... 体験から得られたこと

- ◎ 個人、家庭ごとに抱える課題が生じ、それが大きくなる傾向がある。これに対する相談体制等が必要である。
- ◎ 心身の健康に不調が生じがちであり、確かな支援が必要である。
- ◎ 平時に戻るための支援が必要である。

③ 平時化による仮設支援・地域支援__2



← ○健康講座(階上公民館)

8 まとめ

この度の大災害において公民館(及び公民館に準ずる機関)はその期待に応え、状況が日々変化する中で、しかも長期間に渡って、避難民の救済そして復旧・復興に大きな役割を果たしてきた。気仙沼市の場合は学校と連携する過程を通して公民館の活動にESDの理念が入っているが、仮にESDが意識されなくとも各公民館を中心とする懸命の活動は地域の持続発展やそれを可能とする人材の育成になっているとできる。